

令和元年度 第1回 埼玉県社会教育委員会議 会議録

1 日 時 令和元年9月10日（火）14：00～16：30

2 会 場 埼玉会館 会議室5C

3 出席した委員 （17人）

青山鉄兵委員、生駒章子委員、猪股敏裕委員、井深道子委員、大矢美香委員、小川直己委員、柿沼トミ子委員、風間重文委員、加藤聡司委員、坂口緑委員、高澤守委員、寺山昌文委員、長坂道子委員、芳賀洋子委員、又野亜希子委員、松澤正委員、和田明広委員

4 欠席した委員 （3人）

有田るみ子委員、西村平雪委員、田辺直也委員

5 あいさつ

埼玉県教育局市町村支援部 関口睦 部長

6 委員の紹介

7 議長及び副議長の選任

議長は坂口緑委員、副議長は松澤正委員が選任された。

8 議事の経過

（1）議長の開会宣言

（2）会議の公開・非公開

議長が会議の公開・非公開を委員に諮り、公開とする。
傍聴者なし

（3）会議録署名委員の指名

議長から青山鉄兵委員と生駒章子委員が指名された。

(4) 議題及び経過

ア 議題

- 平成29・30年度の社会教育委員会議建議について
- 教育局の主な社会教育関係事業について
- 市町村の社会教育の状況について
- 社会教育関係団体運営費補助金について

イ 経過

平成29・30年度の社会教育委員会議建議について
教育局の主な社会教育関係事業について
市町村の社会教育の状況について

| | |
|-----|--|
| 議長 | 平成29・30年度の社会教育委員会議建議について、教育局の主な社会教育関係事業について、市町村の社会教育の状況について事務局より説明願いたい。 |
| 事務局 | 資料について説明 |
| 委員 | 子供の虐待が減っていかないが、その点についてどうとらえているか。 |
| 事務局 | 生徒指導課が中心となり、学校で対応しているところである。 社会教育の立場では、家庭教育アドバイザーの研修を行っており、その中で虐待等に気づけるようにしていきたい。 |
| 委員 | 家庭教育をしっかりし、地域のネットワークももっとしっかりしてほしいと思う。一方、いじめや虐待についての対応は学校中心となると思うが、社会教育でも対応しようと思う。 |
| 委員 | 「建議」の位置づけを教えてほしい。誰を対象に作成されているのか。自分が携わっている社会福祉の面でも重なるところがあり、大変よいものだと感じた。建議があることを知らなかった。 去年のテーマ「地域課題解決学習」は埼玉県独自のものなのか、それとも国が方針を出しているのか。自分たちもこのようなものを作成していくのか。 |
| 事務局 | 社会教育委員が話し合っまとめたものが「建議」である。建議の内容を県内に広めたい。 建議は、社会教育に関係する方に配布しているが、多くの方に知っていただきたいと考えている。「地域課題の解決」は、国でも社会教育の役割としている。 |
| 委員 | 「地域課題解決学習」は有意義であるが、それを意識しながら社会 |

教育活動をしていなかった。それが課題である。

議長 「地域課題解決」は我々も考えていくべき課題であると受け止め、今後も話し合っていきたい。

委員 建議の地域課題として、防災教育はどのような経緯でできたのか。地域の社会教育を支えるためには、社会教育主事や社会教育士、図書館司書、学芸員などの専門家がいるが、そういった方の専門性を高めることが課題と考える。専門職を生かすことについて、議論はあったのか。

最後に、第4期埼玉県子供読書活動推進計画の中で、「1か月に1冊も本を読まない児童生徒の割合」を5年後まで約25%の減少を目指すとあるが、その根拠を教えてください。

事務局 来年度から社会教育主事から社会教育士という資格に改められる。いろいろな立場の方に地域の窓口となってもらいたいという趣旨である。地域を束ねたり、県とともに手を取り合って活動して下さったりする方に資格をとっていただきたいと考えている。

埼玉県では社会教育主事の配置率は60%を超えている。今後も必置にむけて各市町村に声をかけていきたい。

委員 確認だが、来年度から社会教育主事が社会教育士に改められる訳ではない。社会教育主事は行政に置かれるポジションであり、大学等で資格を取ると任用資格となり、しかし、名刺には書くことができない。発令されることで名乗れるということであるが、地域でも様々な形で活躍できる専門性であるということから、有資格者を「社会教育士」と名乗れるようになった。そこで、社会教育主事と社会教育士が併用となる。

事務局 続いて、子供読書活動推進計画について25%減とした根拠は、国の「子供の読書活動の推進に関する法律」に基づいている。この法律の中で、国の計画をもとに県は読書活動に関する計画を立てる努力義務があるとしている。国の計画では10年間で50%減をすると定めており、25%減は高い目標値ではあるが、取り組んでいこうと定めた。

| | |
|-----|---|
| 事務局 | <p>防災教育は、公民館等を中心に喫緊の課題であるためとりあげた。専門職についての議論はなかった。</p> |
| 委員 | <p>げんきプラザについて。</p> <p>現代は共生社会であるが、我々は、子供のときに障害者と健常者が一緒に育っていない。インクルーシブとは、障害者の方と健常者が一緒になって学ぶ。子供の時からこういう環境が必要だ。そうすればインクルーシブについて理解できる世界になる。</p> <p>げんきプラザでは行っているか。小中学生がどのくらい来ているか。関心を持っていない学校にどのようなアクションをとっているか。</p> |
| 事務局 | <p>げんきプラザでも障害者と健常者が一緒になってキャンプを行う「いきいき体験事業」という事業を行っている。平成30年度は各6所において、9講座参加者415名で行っている。校長会でも周知している。利用団体からもアンケートを実施して改善を行っている。</p> |
| 委員 | <p>防災教育について、外国の子供たちはどのように情報をもらうことができるか。小学校就学前、入学説明会等の情報について日本語を話せない人はどうやって情報を得るのか。図書館に行っても英語、韓国語、スペイン語はあるが、埼玉県に多く在住するアジアや南米の方の絵本がない。外国人にとっては当たり前の環境がない。子供たちにとっては、子供のころから他者と触れ合うことが大切。多様な方が住んでいるが、外国人の方は市民権を得ていない。日本は、多文化共生を目指しているので、一緒になる仕組みを作ることが大切。色々な言語があることを知ることが大切。例えば、多文化ボランティアの育成とか。日本人も異文化を学ぶことが多文化共生につながる。</p> |
| 事務局 | <p>学校でも課題である。外国人の児童生徒が増えており、様々な言語がある。就学時健康診断から、やさしい日本語が大切である。</p> <p>社会教育の新規事業として、県でも検討している。外国人が地域の中に溶け込む仕組みづくりを行う予定である。具体的には、親子の事業をとおして保護者がつながる講座等を行う。</p> |
| 委員 | <p>外国人で力を発揮しきれてない人が大勢いる。</p> |

- 委員 教育委員会に社会教育担当課がない市町はあるのか。公民館の所管に関する制度も変わっている。県では、教員籍が少ない。年齢構成も厳しい状況にある。計画的な養成がないと今後厳しい。学校教育のなかでも社会教育の分野は大切であるが、今後の社会教育主事養成の展望があれば教えていただきたい。
- 事務局 秩父市は知事部局に担当課がある。両方に担当がある市町もある。教員としては、社会教育主事講習に行くのに、夏休みの期間を全て使って講習を受けることは難しい。校長会等でも社会教育主事講習に教員を出していただくよう依頼している。今後は、学校応援団、コミュニティースクールをやる上でも必要な力となってくる。
- 市町村社会教育主管課長等会議でもお知らせして、教員の意識として地域と連携する意識を高めることから始める。そこからもっと社会教育について知ろう、資格をとろうということにつなげていきたい。
- 委員 社会教育とは何か。知らない教員が多い。資格をとる際、夏休みが短くなっているのが問題である。しかし、何年かに分けてとることができる。その制度は素晴らしい。
- 委員 地域連携等のコーディネーターをする元校長は多い。元校長先生にさらに頑張ってもらおうと良い。
- 委員 建議の方針からも、地域のファシリテーターが大切だということがよくわかる。2025年度以降の超高齢化社会をむかえるにあたり、連携する機関として地域資源である「福祉の事業者や障害者の事業者との連携」という意識が欠けている。今までの福祉は「専門家が従事する」という考えが主であったが、これからは、地域のつながりが大切。例えば、制度とボランティアを組み合わせることが大切。制度だけだと支えきれない。人手不足である。そのために地域がつながる必要がある。包括的に結びつけたものが勝ち。社会教育がひとつのヒントとなる。
- いじめ、虐待、外国、国際交流協会。行動がともなっていくことが大切。教育も福祉もつながっている。
- 議長 県と地域とのつながりなど、たくさんの意見をいただいた。これら

を踏まえて事務局とテーマを詰めていきたい。

社会教育関係団体運営費補助金交付について

議長 事務局から、説明願いたい。

事務局 社会教育関係団体運営費補助金交付について説明。

議長 ここでは、補助金を交付している県と社会教育関係団体の関係について意見をいただきたい。

委員 補助金対象団体の代表を務めているが、県の不当な干渉はないので問題ないと思う。

議長 それでは、19団体の補助金についてはよろしいか。

委員 ≪異議なし≫

議事まとめ

事務局 次回の会議の進め方については、事務局と検討させていただく。
それでは、本日の議事は以上で終了する。

